

家庭内地震防災対策チェックリスト

減災のポイント

平成 25 年 6 月 27 日に静岡県から第 4 次地震被害想定（一次報告）が発表されました。「自助」として自分と家族の命を守るため、各家庭の対策について今一度確認し、チェックボックス□に☑を記入してみましょう。

12 月 1 日(日)には地域防災訓練が実施されますので、積極的に参加して下さい。

I 静岡県第 4 次地震被害想定

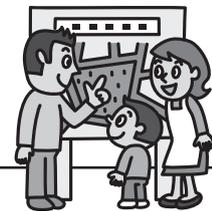
	レベル1	レベル2
想定する地震	東海・東南海・南海の3連動または各単独の地震 等	南海トラフの巨大地震
発生の頻度	約100~150年に一度	1000年~数1000年に一度
地震の規模	マグニチュード8クラス	マグニチュード9クラス
震源の範囲		
最大震度	震度7 (市域の17%)	震度7 (市域の50%)
津波高 (最大)	6 m	13 m
人的被害(死者数)	約 400 人	約 800 人
建物倒壊	約 300人	約 600人
津波	0人	約 100人
山・がけ崩れ/火災	約 30人	約 110人
物的被害(全壊・焼失)	約 14,000 棟	約 21,000 棟

II 家庭で行っておく地震防災対策について、チェックしよう。

1 家族で災害時の話し合いをしましょう!!

災害時に慌てないように、家族全員の役割分担や避難場所、連絡方法をあらかじめ話し合っておきましょう。月に一度程度、定期的に話し合う習慣を付けましょう。

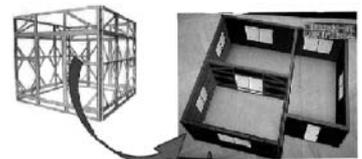
- 避難場所・避難ルートを決めてある。
- 家族が離ればなれになった時の連絡方法を決めてある。
- 家族一人ひとりの役割分担を決めてある。



2 建物の耐震化をしましょう!!

第 4 次地震被害想定では、建物倒壊により約 600 人の方が亡くなる想定がされています。地震の被害から生命、身体や財産を守るため、建物の耐震化を実施しましょう。

- 耐震診断や耐震補強工事を実施している。
- 無料の耐震診断や耐震補強工事に補助制度があることを知っている。
- 耐震シェルターや耐震ベットを設置している。



3 家具の固定をしましょう!!

阪神淡路大震災では、ケガをした方の約65%は家具の転倒と棚からの落下物によるものでした。自宅内でケガをしないように、家具の固定を実施しておきましょう。

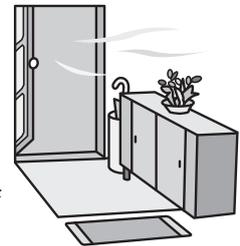
- たんす、書棚、食器棚、ピアノ、冷蔵庫等を壁に固定している。
- 家具の上には、物を置かないようにしている。
- 寝室や出入り口付近の家具は、固定できない場合には、配置を工夫している。



4 避難する時のことを考えよう!!

家からスムーズに避難出来るように、日頃から出入口となる場所は整理整頓に努めましょう。家の中でも、ガラスが割れて素足では危険です。枕元に靴やスリッパを用意しておきましょう。

- 寝室や枕元には、靴やスリッパを置いている。
- 玄関や階段、ベランダに物を置いていない。
- 隣近所に声を掛け合い、助け合って避難するようにしている。
- 避難所の居室スペースには、ペットの持ち込みは、禁止です。
避難所のペットの事も考え、普段からケージ(おり・かご等)での飼育や鳴き声の管理など、しつけをしておきましょう。



5 家の周りにも気をつけよう!!

家の周りにも危険が潜んでいます。日頃から対策をとっておきましょう。

- 窓ガラスには、飛散防止フィルムを貼っている。
- ブロック塀は、補強や修理して耐震性を持たせてある。
- プロパンガスのボンベは、倒れないように固定してある。



6 停電に備えよう!!

- 停電に備えて、非常用の明かり(懐中電灯など)を用意している。
- 予備の乾電池等を用意している。

7 備蓄品は7日分以上(非常持出品3日分を含む)を用意しよう!!

非常持出品は、避難した時の最小限の必需品です。いつでも持ち出せるようにしておきましょう。備蓄品は、救援物資が届くまでに必要な生活物資です。南海トラフ巨大地震では被害が超広域となるため、短時間で救援物資が届くことは期待出来ません。各自の備えが必要です。

- 7日分以上の、水と食料を備蓄している。
うち非常持出品3日分。残りの4日分以上は倒壊の危険がない場所に保管している。
水は1人1日3リットル。非常持出品の食料は調理不要のものを用意しましょう。

- 非常持出品に、生活用品を準備している。
ライト、ラジオ、予備電池、生理用品、持病・常備薬、ティッシュ、下着、マスク、貴重品（多少の現金、健康保険証のコピー、通帳、印鑑）等
- 備蓄品に、生活用品を準備している。
衣類、使い捨てカイロ、卓上コンロ、簡易トイレ、ロープ、防寒具、寝具等
- 非常持出品は、緊急時に直ぐ持ち出せる場所に置いている。
- 乳幼児や女性・高齢者に考慮して、家族に合った品物を準備している。



8 情報入手の手段を知っておこう!!

災害時に情報が無いことが、最も不安になります。災害時に停電しても常に情報を得ることが出来る状況を複数用意しておく必要があります。

- 同報無線の戸別受信機や防災ラジオの電池を、年1回交換している。
- 同報無線メールマガジンに登録（無料）し、防災や防犯情報を入手している。
- 災害用伝言ダイヤル「171」や「eじゃん掛川」の使用方法を知っている。

同報メールマガジン登録方法

同報無線の放送内容を携帯電話のメールで見る事が出来ます。
(災害情報、火災情報や不審者情報、振り込めサギ等)

- 1 右の二次元バーコードを読み取り、空メールを送る。
(件名・本文は不要)
- 2 返信メール「メルマガ登録のご案内」が届く。
返信メールが届かない場合は、「@city.kakegawa.shizuoka.jp」からのメールを受信可能か確認してください。
- 3 受信したメールに従い、チェックを付けて送信する。



9 火災に備えよう!!

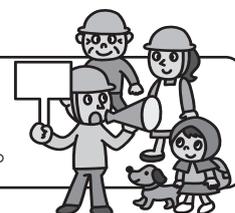
倒壊家屋や家財が散乱した家屋から、電気が復旧すると火災が起こることがあります。避難時にはブレーカーを落としましょう。

- 電気復旧時の漏電火災を防ぐため、避難時にはブレーカーを落とすことを知っている。
- 住宅用火災警報器を設置している。
- 消火器を保有している。

10 自主防災会の活動に参加しよう!!

常日頃から地域の防災活動に参加し、防災知識や技術を習得しておくことで災害時に役に立ちます。また、地域コミュニケーションをしっかりとっておくことが大切です。

- 地域で行う防災訓練に参加している。
- 日頃から、向こう3軒両隣で支えあい助け合う近所づきあいをしている。



地震が発生してもわが家で暮らせるように

自宅の耐震化 地震に強いわが家にしよう!

既存木造住宅耐震化の促進

プロジェクト
TOUKAI (東海 圏境) -0

昭和56年5月以前の木造住宅は、

耐震診断は無料 設計や耐震補強工事には**補助金が出ます。**

詳しくは都市政策課 ☎21-1152へお問い合わせください。

木造住宅の耐震化に関する補助制度

(1) 無料耐震診断の実施

昭和56年5月以前に建築した木造住宅
無料で専門家(県耐震診断補強相談士)を派遣します。

(2) 補強計画の作成

耐震診断の結果問題があった場合
補助限度額 14万4千円(H22平均額:15万8千円)

(3) 補強工事の実施

補強計画に基づき工事を実施した場合
補助限度額 1世帯50万円
(高齢者などの世帯:80万円)

家具類の固定は 大丈夫ですか!!

自宅の耐震化とともに



家具等の固定 家具等の転倒や物の落下を防ごう!

- 家具、テレビ、パソコン、ピアノなどをしっかりと固定する。
- 食器棚や本棚の上に重い物を置かない。



固定金具



つっぱり棒
(天井が丈夫な場合)



固定ベルト



開き戸止め具

家具の転倒防止に関する制度

(1) 条件 掛川市に住所を有し、

- 65歳以上の世帯員で構成された世帯
- 障害者世帯(18歳以上65歳未満の介助者が同居する世帯を除く)
- 母子世帯(18歳以上65歳未満の介助者が同居する世帯を除く)

(2) 内容 家具の固定に掛かる費用を5ヶ所まで負担します。

テレビについては、バンド等各自で用意してください。(1世帯3ヶ所から5ヶ所)

スッパースタイル器具

家具の前方下部に挟み家具を壁側に傾斜させるタイプ

薄型テレビや電子レンジには
粘着性マットやストラップで倒り出し防止を行う。



危機管理課 ☎21-1131

災害時の安否情報伝言サービス

「災害用伝言ダイヤル171」

「災害用伝言ダイヤル」は、被災地の方が録音した安否情報を、再生することで確認できるサービスです(12/1~3、毎日1日と15日、正月3が日に利用体験ができます。)

「災害用伝言ダイヤル」操作方法

171をダイヤル

「こちらは、災害用伝言ダイヤルです」と音声案内が流れます。

伝言の録音は1をダイヤル

伝言の再生は2をダイヤル

自宅電話番号を市外局番からダイヤルしてください。

録音

再生

171-1-0537-〇〇-〇〇〇〇